

大会時・コロナ禍までの取組

- ・2018年11月：2020TDM推進プロジェクト説明会に参加。
社長より取組の検討指示

人の流れ

きっかけ



以前より実施



オリパラ



コロナ禍

□ テレワーク、リモート会議の活用

既設制度を大会を契機に強化。派遣社員も含めて実施率8割程度。
本社オフィスでは、コミュニケーションを取りやすい環境を整備し、
自宅とオフィスでのハイブリッドワークを促進。
会議は大部分をリモート化し、コミュニケーションの補完方法について
ノウハウを社内で共有。

□ オフピーク通勤

混雑時間を避けるよう社内発信。社員が自発的に密を避けて出社

□ 手続き等のオンライン化

社内手続きは基本メールで決済し、押印はまとめて実施。

□ 書類等の電子化・・・従前より強力的に推進

□ 有給休暇の計画的な取得の促進・実施・・・全社一斉休暇を検討

□ 混雑が見込まれるルートの回避…環七内側と首都高等の回避を案内

□ アクションプランの策定

物の流れ

きっかけ



以前より実施



オリパラ



コロナ禍

□ 大会期間を避けた発注

発注時には、混雑による遅延の可能性がある大会期間を外した

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

□ テレワークとオフィス勤務の最適な組み合わせ

□ 会議等のオンライン化

□ 手続き等の電子化

□ 書類等の電子化

取組ポイント

- 2020年の大会開催の2年前よりトップダウンで取組開始
- 全派遣元と調整し、社員同様のテレワークを可能に
- 押印をまとめることで、作業に伴う出勤回数を削減
- 役員が率先してタブレットを使用しペーパーレスを推進
- 大会に向けてだけでなく、時間や場所に囚われない働き方の推進を目的に取組を実施
- 大会時にも事業活動を縮小しないこととし、BCPの実効性強化の面からもアクションプランを策定

取組ポイント

- 東京都から提供されたデータを社内で共有

物の流れ

□ 取引先や協力企業などサプライチェーンで連携した取組

【東京2020大会を振り返って】

- ・現在は感染症対策を理由に派遣社員もテレワークできているが、始めた当初は抵抗感が強かったように思う。東京2020大会の準備として前もって取組を始めていたのでよかったが、感染症が流行し始めた頃に対応を開始していたら、とても苦労したと思う。
- ・東京2020大会に備えて、BCP策定・見直しが大きく進んだため、それが自社のレガシーになると考えている。
- ・大会やコロナ禍への対策を実施することは、その時を乗り切っただけでなく、リスク管理や危機管理能力を高めると考える。